

この人に会いました

音楽プロデューサー

日高正博さん



・開催以来大変な人気で湯沢町の夏のイベントとして定着したフジロックフェスティバルですが、開催に至るまでの経緯など、お聞かせください。

このフェスティバルを最初に企画開催したのが平成9年の夏で、山梨県の富士山の3合目にある天神山スキー場でした。この時は天候が不順だったことや、会場への道路が狭く渋滞が生じた事もあって、翌年10年には東京湾の中の埠頭で開催しました。二日間で約6万人ほどの入場者がありました。ですが、元来私の構想の中には、山の緑に囲まれた自然環境の中で催したいという夢がありましたので、色々な所を見て回りました。最終的に立地的に素晴らしい苗場スキー場で開催したいということで国土計画さんに相談したところ、会場整備等についても積極的な協力をいただき、また宿泊施設などにも協力していただき、平成11年の第一回開催から今年で6回目を開催できるに至った次第です。

・平成11年の開催から今年で第6回目を迎えたわけですが、入場者数とお客さんの年齢層、地域別などはどう推移していますか？

入場者は平成11年最初の時から平均約9万人前後、今年は前夜祭の入場者を入れて約10万5千人で最高を記録しました。年齢層も10代からお子様連れの高年齢層まで、北海道から九州まで、果ては海外からも様々な方が見えられています。またリピーター率も65%と高く、このイベントがお客さんに定着していることが窺われます。

これは、私どもの考えとして音楽的に一つのジャンルにこだわらず、ラテン、ジャズ、ポップスといった幅広い音楽を7つのステージに分けて提供したこと、また要所には音楽以外にリラックスして遊べる催物会場を提供したことなどが、幅広い層に支持されているのではないかと思っています。

・フジロックフェスティバルの町に対する経済波及効果についてはどのようにお考えですか？

さる調査機関によると、交通機関及び湯沢町を含めて全体では10億円、地元では3億から5億と試算されているようです。

・フジロックフェスティバルについて今後の抱負や、新しい企画などがあつたらお聞かせください。

湯沢町は四季の変化があり自然に囲まれた大変美しい町です。そうした環境の中でこのイベントが成功できたのは、国土さんをはじめ、浅貝地区の皆様、町行政当局など、多くの方々のご理解とご協力の賜物と感謝しております。これからの抱負としては、音楽だけを提供するのではなく、フェスティバル開催中、会場でもやっっている映画・サーカス、子供さんが遊ぶためのキッズランド、レストランなど音楽以外の施設にお金をかけるのは無駄なことだと思います。しかしこの無駄な空間、つまりこうした遊びの場の提供など、すべてにおいてお客さんが楽しむことの出来る環境作りが大切と考えています。

美しい自然の残る湯沢町を故郷に帰る思いで訪れ、音楽を通して人的な交流の輪を広げてもらいたいというのが私の願いです。これからも私はじめスタッフ一同、より以上に皆さんに喜んでもらうフジロック作りのため努力いたしますので、今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

・インタビュを終わってご多忙にもかかわらず、わざわざ東京からお越しいただいて話を伺いました。今年6回目の開催で過去最高の集客を達成し、イベントとして定着してきたことを皆さんのおかげと大変喜んでおられました。まだ55歳という若さでプロデューサーとしても経験豊富であり、今後の企画などについても情熱的に語っていただき、今後の展開に大いに期待感を持つことが出来ました。

インタビュ／師田 保・柿崎直治広報委員

日高正博氏プロフィール
昭和24年1月24日生まれ 55歳
1971年TBS系東京ビデオセンターにてラジオ・TV番組制作、以降フリーの音楽プロデューサーとして活躍し、(株)スマッシュを設立、コンサート・レコードなどの企画・プロデュース、TVラジオ番組等の制作に携わる。
本年3月、英国女王より英国内外の文化交流に寄与した人に与えられるOBE勲章を、音楽のジャンルでは初めて授与される。

編集後記

「絆(きずな)」

コシヒカリの刈入れの終わった田んぼには赤とんぼが飛び交い、町から見渡す周囲の山々も秋の彩りに移り変わってきました。

平成15年度の一般会計及び企業、事業会計の15年度決算を審議する議会も去る9月13日から28日までの日程で開かれ、各会計ともすべて認定されました。

議会が行う決算審査は、町長が自らの責任と抱負をもって編成した予算がその一年間でどれだけ住民福祉向上のために正しく使われたかを審査するものです。したがって決算審査は過去の行政効果の判定であり、同時に次年度以降の対策や問題点を探し出すことでもあります。

昨今の厳しい経済情勢の中で議員からはさまざまな質問や意見が飛び交いました。議会としては町長はじめ執行部に、これらの意見提言を次年度予算編成に正しく反映されることを強く望むところです。

広報委員長 柿崎直治

編集

湯沢町議会
広報対策特別委員会